

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第202集

大和川今池遺跡Ⅲ

松原市

# 大和川今池遺跡Ⅲ

—都市計画道路大和川線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

一〇一〇年五月

2010年5月

財団法人 大阪府文化財センター

財團法人  
大阪府文化財センター

松原市

# 大和川今池遺跡Ⅲ

—都市計画道路大和川線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

財団法人 大阪府文化財センター



## 序 文

大和川今池遺跡は、大阪府の南部の堺市と松原市に跨って所在する縄文時代から中近世にかけての複合遺跡です。当遺跡は、宝永元年（1704）に行われた大和川付け替え工事によって、一部がその河川域に組み込まれることとなりました。

これまでの調査では、難波京朱雀大路が南に延伸する位置に「難波大道」と呼ばれる古代の官道跡が検出されています。他に、古墳時代から中近世に至る各時代の集落跡や水田などの生産遺構が確認されています。

今回の調査は、大和川今池遺跡の北東部に当たり、小規模の調査でありましたが、古墳時代後期の溝、古代の溝・ピット・土坑や中近世にかけての耕作土層を検出しており、当時の集落が付近に展開していたことが想定できるようになりました。

これに伴い、遺物もわずかに出土しております。

こうした成果は、これまでに実施した発掘調査の成果を追認・補強するものであり、当遺跡における集落の拡がりを考える上で、極めて重要な成果となるものです。

最後に、調査に際して、大阪府富田林土木事務所、大阪府教育委員会ならびに松原市教育委員会をはじめとする、関係者の方々のご指導、ご協力に感謝申し上げるとともに、今後とも当センターの埋蔵文化財調査事業に一層のご理解とご協力を願う次第であります。

平成22年5月

財団法人 大阪府文化財センター  
理事長 水野正好



## 例　　言

1. 本書は、大阪府松原市天美西4・7丁目地内に所在する大和川今池遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、都市計画道路大和川線建設事業に伴い、大阪府富田林土木事業所の委託を受け、大阪府教育委員会の指導のもと、財団法人大阪府文化財センターが実施した。
3. 発掘調査・遺物整理に関わる受託契約期間および調査体制については以下のとおりである。調査・遺物整理に当たっては、隨時当財団職員の助言・協力を得た。

### 大和川今池遺跡 発掘調査（09-1）

受託契約名　都市計画道路 大和川線 大和川今池遺跡（その3）発掘調査

受託契約期間 平成22年1月4日～平成22年5月31日

調査体制　調査部長兼調査課長 福田英人

調整グループ長 金光正裕

調整グループ南部総括主査 森屋美佐子

4. 本書で用いた現地写真は調査担当者が撮影した。また、遺物写真の撮影に関しては、南部調査事務所 非常勤職員 久禮隆志が担当した。
5. 調査にあたっては、以下の諸機関・諸氏よりご協力・ご教示を得た。記して感謝の意を表したい。  
(敬称略・順不同)  
大阪府富田林土木事業所・松原市教育委員会・大阪府教育委員会
6. 本書の執筆・編集は、森屋が担当した。
7. 本調査に関わる出土遺物・実測図・写真・カラースライド・デジタルデータ等は、財団法人 大阪府文化財センターにおいて保管している。広く活用されることを希望する。

## 凡　　例

1. 調査にあたっては、國土座標軸（使用測地系「世界測地系 2000」）第VI座標系を基準にした。
  2. 発掘調査および遺物整理については、『(財)大阪府文化財センター 遺跡調査基本マニュアル【暫定版】』(2003) の内容に準拠して行った。

なお、その詳細については第Ⅲ章に記述している。
  3. 本書に掲載した遺構図に付された方位は、すべて國土座標に基づく座標北を示している。なお、座標北を基準とした場合、遺跡周辺の磁北はN 6° 27' Wに、真北はN 0° 13' Eに偏位する。
  - また、遺構図に記載した座標値はmで表示している。
  4. 標高については、すべて東京湾平均海面(T.P.)+値を使用している。
  5. 遺構番号は、遺構の種類とは関係なく、調査時において検出順に付与した1からの連番号である。
  6. 各種遺構・遺物の記述に当たっては、規模等の数値について、遺構がm単位、遺物がcm単位を基準としている。なお、それぞれの数値については最小で小数点第2位までの表記としている。
  7. 遺物番号は、挿図単位毎の通し番号で、写真に関しては、挿図番号と同一の番号を記載している。
  8. 本書に掲載した遺物実測図の縮尺は、土器類を4分の1とし、遺物写真に関しては、縮尺は任意である。
  9. 本書で用いた土色は、小山正忠・竹原秀雄編(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修)の『新版 標準土色帖』2009年版を基準としている。
  10. 遺構挿図・遺物挿図に関しては、IllustratorCS 2で作図を、写真図版に関しては、フィルムで撮影後、紙焼きし、所定の写真図版用台紙に添付し、図版を作成を行っている。
- なお、報告書の編集は、InDesignCS 2で行っている。

## 本文目次

序例	文言
凡例	例
目次	次

第Ⅰ章 調査に至る経緯と経過	
第1節 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 位置と環境	
第1節 遺跡の位置と地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第Ⅲ章 調査の方法	
第1節 現地調査	7
第2節 整理作業	9
第Ⅳ章 調査の成果	
第1節 基本層序	10
第2節 調査の成果	11
第3節 まとめ	12

写真図版

報告書抄録

## 挿図目次

第1図 調査区位置図	第2図 調査区配置図
第3図 周辺地形分類図	第4図 大和川今池遺跡周辺の遺跡分布図
第5図 地区割図	第6図 基本層序図
第7図 1・2トレンチ平面図	第8図 各遺構平・断面図
第9図 出土遺物実測図	

## 表目次

第1表 既往の調査刊行図書一覧

## 写真図版目次

### 図版1 遺構 1トレンチ

- 1. 第1面 全景
- 2. 第2面 全景
- 3. 第2面 西半部

### 図版2 遺構 2トレンチ

- 1. 東側 南端断面
- 2. 西側 南端断面
- 3. 第2面 西側全景
- 4. 第2面 1溝断面
- 5. 第2面 東側全景

### 図版3 遺物

- 1. 2トレンチ 第2面 1溝出土遺物
- 2. 第3層出土遺物

### 図版4 遺物

- 1. 第3層出土遺物
- 2. 第3層出土遺物
- 3. 第2層出土遺物

# 第1章 調査に至る経緯と経過

## 第1節 調査に至る経緯

### 1. 調査に至る経緯

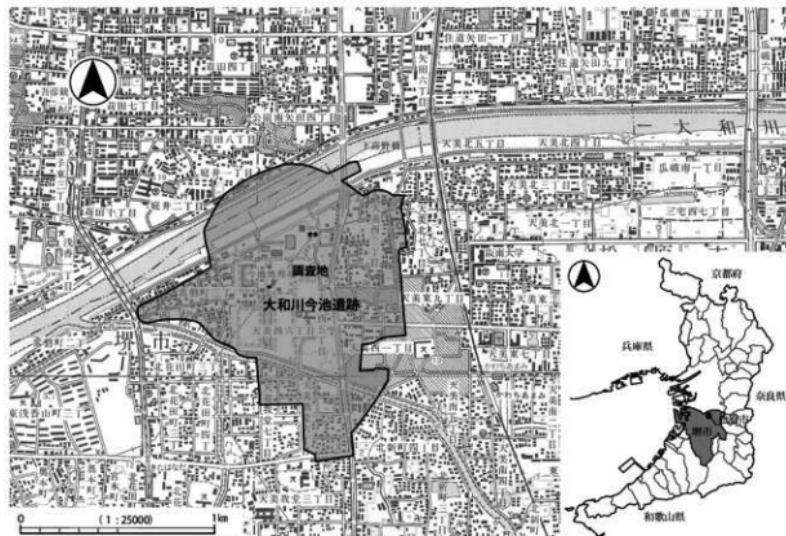
大和川今池遺跡は、大阪府松原市天美西、堺市北区常磐町、大阪市住吉区苅田・東住吉区矢田に所在し、南北約1km、東西約1.45kmの範囲に広がる遺跡である。

当遺跡の調査は、1977年（昭和52年）度に大阪府下水道部によって堺市・松原市・美原町（現堺市）などの周辺5市町の下水処理を実施すべく、「大和川下流西部流域下水道今池処理場」の建設が計画され、それに伴い堺市教育委員会が埋蔵文化財の有無を確認する試掘調査を実施したことによるものである。この結果、古墳時代を中心とする遺構・遺物が確認され、遺跡として周知されることになった。

今池処理場（現、今池水みらいセンター）内における調査は、大阪府・堺市・松原市の各教育委員会からなる大和川今池遺跡調査会が1978年（昭和53年）より実施し、その後、大阪府教育委員会による調査が行われた。

これらの三十数次における発掘調査の結果、旧石器時代以降の多数の重要な遺構や遺物が発見され、府内における著名な遺跡の一つである。中でも、古墳時代や古代の建物・井戸・溝などは、当時の集落の様相を窺うことができる資料となっている。

さらに、大阪市法円坂一帯に所在する難波宮の中央通である朱雀大路から南に延びる「難波大道」と呼ばれる古代の道路が、1979年（昭和54年度）および2007年平成19年度の調査などで確認されている。



第1図 調査地位位置図

この「難波大道」は、古代以来の地割である「条里制」区画の基準線となっていたと推定されており、2007年度の調査地でもこの条里制に伴う坪境溝や、坪内の畦畔が確認されている。

その後、遺跡内を流れる大和川の河川改修事業に伴う発掘調査を1996年度（平成8年度）から2001年度（平成13年度）にかけて大阪府教育委員会の指導の下、財団法人大阪府文化財センター（以下、当センター）が行っている。

都市計画道路大和川線建設に伴う事業では、東から三宅西遺跡・池内遺跡・大和川今池遺跡の3遺跡があり、2004年度（平成16年度）から当センターで順次調査が行われ、『三宅西遺跡』および『池内遺跡』の報告書が刊行されている。

上述の大和川今池遺跡の発掘調査は、2006・2007年度（平成18・19年度）および2007・2008年度（平成19・20年度）に行われ、その後、2009年7月に『大和川今池遺跡I』、同年8月に『大和川今池遺跡II』の報告書が刊行されている。

## 2. 調査の経過

本調査は、大阪府富田林土木事務所管轄事業の都市計画道路大和川線建設に伴う付帯工事で、関西電力の送電線である信貴敷津線No.60～63間の鉄塔を移設するもので、埋蔵文化財の情報を取得することを目的とし、大阪府教育委員会の指導の下、(財)大阪府文化財センターが実施したものである。実施にあたっては、平成21年12月18日に大阪府富田林土木事務所と(財)大阪府文化財センターの間で平成22年1月4日～同年5月31日を受託契約期間とする契約を締結した。その間の1月6日～2月22日まで発掘調査を行った。その後、同年3月31日まで遺物整理を行い、5月31日に『大和川今池遺跡III』を刊行した。

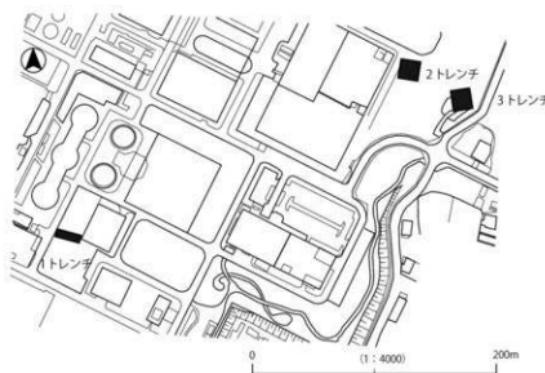
調査は3箇所に別れ、調査順に従い、それぞれを1・2・3トレーンチと呼称する。

1トレーンチ 20.4m × 6.8m = 138.7 m<sup>2</sup>

2トレーンチ 15.6m × 15.6m = 243.3 m<sup>2</sup>

3トレーンチ 16.8m × 16.8m = 282.2 m<sup>2</sup>

計 664.2 m<sup>2</sup>



第2図 調査区配置図

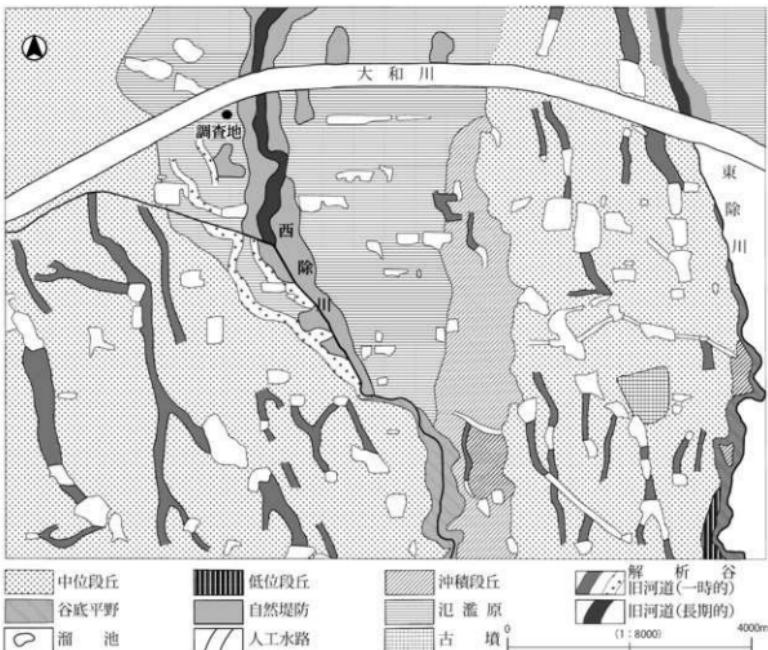
## 第2章 位置と環境

### 第1節 遺跡の位置と地理的環境

大和川今池遺跡の立地する地域は、和泉山脈から北に延びる洪積台地が途切れ、沖積平野へと移行しており、この洪積段丘中位の東端から、東側を流れる旧西除川の氾濫平野との境界部分に位置する。

標高は、T.P. 9.50～10.50 mを測る。日下雅義氏の分類によると、本遺跡は中位段丘と旧西除川の氾濫原にあたる。遺跡の東側を流れていた旧西除川の両側は段丘地形で、西方の段丘面は北西に向かって緩やかに傾斜している。東方の中位段丘は4～5 mの比高で西方の氾濫原である洪積段丘に漸次移行し、下流の氾濫原では旧西除川に沿って自然堤防状の微高地が見られる。本遺跡の東側では、この自然堤防の地形や一時的に流れた旧河道路跡が確認できる。

旧西除川は、大阪狭山市に現存する古代の溜池である狭山池から流れ出て、その東側を流れる旧東除川と共に北に向かって流れていた。両河川は、下方浸食を繰り返し、谷底平野が発達したため、周辺の洪積台地部では灌漑用として掘削された大小様々な溜池が点在するようになる。今池もこうした溜池の一つであった。北上する流れは、旧大和川の流れとあいまって、本遺跡の北側に向かって扇形に広がる



第3図 周辺地形分類図

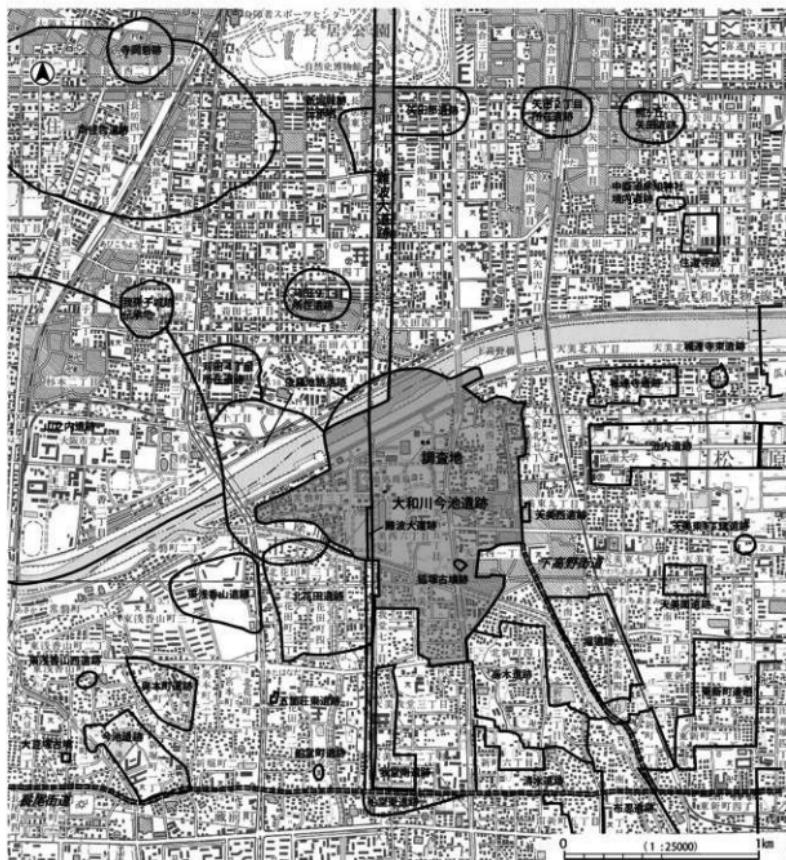
河内平野に洪水の被害を頻繁にもたらした。河内平野の洪水被害を解消すべく、1704年(宝永元年)に江戸幕府によって大和川が付け替えられ、東西方向に流れを向け大阪湾に注ぐようになった。西除川もやがてこの地域の地盤の上昇に伴い、西に屈曲し大和川に流路を変えることとなった。

その後、現在に至るまで、田園地帯が広がっていた。

## 第2節 歷史的環境

本遺跡が所在する河地平野南部には、多数の遺跡が存在し、それらは考古学的に重要な遺跡がある。

旧石器時代 緊六遺構と共に国府型ナイフ形石器が検出された堺市南花田遺跡や大阪市長原遺跡・瓜



第4図 大和川今池遺跡周辺の遺跡分布図

破遺跡・大堀遺跡・遠里小野遺跡・住吉大社境内遺跡・松原市清堂遺跡・上田町遺跡などがあげられる。

本遺跡では既往の調査で遺構は確認されていないが、包含層から翼状薄片石核や国府型ナイフなどの石器が出土している。

縄文時代 この時期の遺構・遺物を検出した遺跡には、大阪市山之内遺跡・岸ノ里遺跡・長原遺跡・瓜破遺跡・堺市南櫻町遺跡などがあげられる。なかでも、長原遺跡では縄文時代晚期の指標である「長原式」土器が検出されている。

本遺跡では、既往の調査で石鏃や有舌尖頭器なども出土している。

弥生時代 この時代には、本遺跡周辺でも活発な活動が見られるようになる。堺市北花田遺跡・南花田遺跡・田出井遺跡・三国ヶ丘遺跡・大阪市遠里小野遺跡・住吉大社境内遺跡・南住吉遺跡・瓜破遺跡・瓜破北遺跡・長原遺跡・桑津遺跡・加美遺跡・松原市天美南遺跡・城連寺遺跡・河合遺跡・布施遺跡・池内遺跡・三宅西遺跡など枚挙に暇がない。

本遺跡では、既往の調査で弥生時代後期の遺構・遺物が検出されているが、遺跡全体でみると希薄である。

古墳時代 この時代になると、遺跡数が格段に増加する。大阪市瓜破北遺跡・喜連東遺跡・長原古墳群・加美古墳群・堺市田出井山古墳（伝反正陵）・天王古墳・鈴山古墳・松原市新堂遺跡・三宅遺跡・三宅西遺跡・池内遺跡・上田町遺跡などがある。

本遺跡の既往の調査では、布留期の堅穴住居址や掘立柱建物・井戸・土坑・溝、5世紀代の円筒埴輪や家型埴輪を作り埋没古墳が1基および5・6世紀代の掘立柱建物・井戸・土坑・溝などが検出されている。

古代 飛鳥・奈良時代になると、周辺地域の遺跡数は減少し、平安時代になるとさらに少なくなる。大阪市山之内遺跡・津守庵寺・瓜破廃寺・堺市新金岡3丁遺跡・北三国ヶ丘遺跡・松原市池内遺跡などがある。特に、池内遺跡では、平安時代の掘立柱建物が60基以上検出されている。

本遺跡の既往の調査では、この時期が最も遺構・遺物量が多い。最も脚光を浴びた「難波大道」が数次に亘る調査で検出されている。なお、東半部で同時期の掘立柱建物・井戸・土坑などが検出され、奈良時代に入ると水田遺構や飛鳥時代と同様な遺構が検出されている。平安時代では、遺構数も減少している。さらに、西端部では、阿麻美許曾神社への参道の側溝と思われる溝が検出されている。

中世 平安時代末から始まる新田開発に伴って、洪積段丘上の削平が目立ち、周辺ではこの時代の遺跡が点在している。大阪市寺岡砦跡・我孫子城跡伝承地・新堀城跡伝承地・堺市長曾根遺跡・新金岡町遺跡・北三国ヶ丘遺跡・南花田遺跡・五箇荘東遺跡・松原市高木遺跡などがある。

本遺跡の既往の調査では、掘立柱建物・井戸・土坑・区画溝や水田・瓦溜めなどが検出されている。

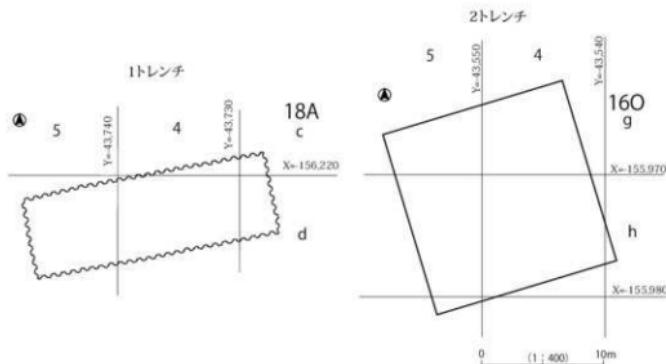
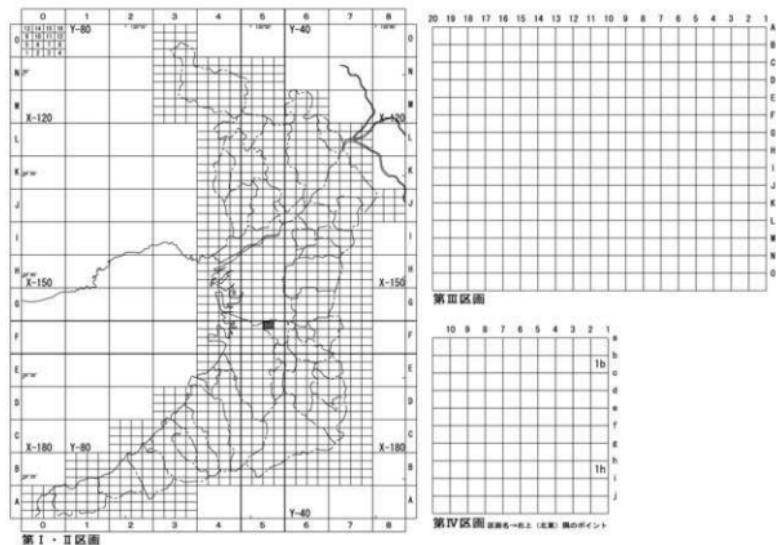
第1表 既往の調査刊行図書一覧

著者名	出版年	収録書名	編集機関
森村健一	1978	『大和川今池遺跡』—発掘調査資料その1—	大和川・今池遺跡調査会
森村健一他	1979	『大和川・今池遺跡—第1地区発掘調査報告—』	大和川・今池遺跡調査会
森村健一	1979	『大和川今池遺跡』—発掘調査資料その2—	大和川・今池遺跡調査会
森村健一	1979	『大和川今池遺跡』—発掘調査資料その3—	大和川・今池遺跡調査会
森村健一	1979	『大和川今池遺跡』—発掘調査資料その4—	大和川・今池遺跡調査会
森村健一編	1980	『大和川・今池遺跡II—第3・4・5発掘調査報告書』	大和川・今池遺跡調査会
森村健一	1980	『大和川今池遺跡』—発掘調査資料その5—	大和川・今池遺跡調査会
森村健一	1980	『大和川今池遺跡』—発掘調査資料その6—	大和川・今池遺跡調査会
森村健一編	1981	『大和川・今池遺跡III—第6地区・「古道」発掘調査報告書』	大和川・今池遺跡調査会
岩瀬透・倉谷保裕編	1983	『大和川・今池遺跡発掘調査概要』	大阪府教育委員会
松原市教育委員会	1984	『松原市遺跡発掘調査概要』昭和59年度	松原市教育委員会
宮野淳一編	1985	『大和川・今池遺跡発掘調査概要』II	大阪府教育委員会
松岡良輔・黒田淳	1986	『大和川・今池遺跡発掘調査概要』III	大阪府教育委員会
松原市教育委員会	1986	『松原市遺跡発掘調査概要』昭和60年度	松原市教育委員会
松原市教育委員会	1987	『松原市遺跡発掘調査概要』昭和61年度	松原市教育委員会
岩瀬透	1988	『大和川・今池遺跡発掘調査概要』IV	大阪府教育委員会
岩瀬透・中達健一	1988	『大和川・今池遺跡発掘調査概要』V	大阪府教育委員会
松原市教育委員会	1988	『松原市遺跡発掘調査概要』昭和62年度	松原市教育委員会
松原市教育委員会	1989	『松原市遺跡発掘調査概要』昭和63年度	松原市教育委員会
岩瀬透	1990	『大和川・今池遺跡発掘調査概要』VI	大阪府教育委員会
岩瀬透	1990	『大和川・今池遺跡発掘調査概要』VII	大阪府教育委員会
横田明	1991	『大和川・今池遺跡発掘調査概要』VIII	大阪府教育委員会
林日佐子	1992	『大和川・今池遺跡発掘調査概要』IX	大阪府教育委員会
桥本哲	1992	『大和川・今池遺跡発掘調査概要』X・『南花田遺跡』VII	大阪府教育委員会
阪田育功・森屋直樹	1993	『大和川・今池遺跡発掘調査概要』XI・『清堂遺跡発掘調査概要』I	大阪府教育委員会
藤田道子	1995	『大和川・今池遺跡発掘調査概要』XII	大阪府教育委員会
西口闘一	1996	『大和川・今池遺跡発掘調査概要』XIII	大阪府教育委員会
岩瀬透	1997	『大和川・今池遺跡発掘調査概要』XIV	大阪府教育委員会
地村邦夫	1998	『大和川今池遺跡』	大阪府教育委員会
(財)大阪府文化財センター	1998	『大和川今池遺跡現地公開資料』	(財)大阪府文化財センター
(財)大阪府文化財センター	2000	『大和川今池遺跡(その1・その2)』	(財)大阪府文化財センター
(財)大阪府文化財センター	2000	『大和川今池遺跡現地説明会資料』	(財)大阪府文化財センター
(財)大阪府文化財センター	2001	『大和川今池遺跡(その3・その4)』	(財)大阪府文化財センター
(財)大阪府文化財センター	2002	『大和川今池遺跡(その5・その6・その7)』	(財)大阪府文化財センター
(財)大阪府文化財センター	2007	『大和川今池遺跡現地公開会資料』	(財)大阪府文化財センター
(財)大阪府文化財センター	2008	『大和川今池遺跡現地説明会資料』	(財)大阪府文化財センター
(財)大阪府文化財センター	2009	『大和川今池遺跡I』	(財)大阪府文化財センター
(財)大阪府文化財センター	2009	『大和川今池遺跡II』	(財)大阪府文化財センター

# 第3章 調査の方法

## 第1節 現地調査

現地における調査は、当センターが策定した『遺跡調査基本マニュアル【暫定版】』に基づき実施した。



第 5 図 地区割図

調査箇所の呼称については、受託年度（西暦下2桁）－発注番号（発注順）を組合せて表記する原則に基づき、09－1 調査区と呼称し、さらに必要に応じてトレンチ名を付した。このうち、調査地の地区割については、国土座標を利用し、第VI座標系に基づく地区割によっている（第5図）。

これに準じると、今回の調査地の第I・II区画上の位置は、F 5－15となる。遺物の取り上げもこの世界測地系に即しており、取り上げ区画には最小単位を10mとする第IV区画までを用いた。

水準は、全国的に共通の基準となっている東京湾平均海水位（T.P. : TOKYO PEIL）を用いている。現地における調査は、各トレンチとも、現地盤測量、機械掘削、同出来形測量、人力掘削、同出来形測量、埋め戻しの手順を踏んだ。なお、機械掘削では盛土層、現代耕作土層などを除去した。人力掘削においては、断面観察および排水のために調査区周間に側溝を掘削し、この段階で確認調査成果をも鑑み、調査対象面を想定した。のち詳細な断面観察を行い、断面図を作成した。これと併行し、遺構面検出を行い、精査の後、図化および写真撮影を行った。

調査における写真撮影には、35mm白黒フィルム・リバーサルフィルム、デジタルカメラを主に用い、全景写真や一部の遺構などには6×7白黒フィルムを用いた。なお、撮影対象を記す当センター所定の写真写し込みラベルは、調査名・調査区・内容（地区割）、撮影方向・撮影日・撮影者を記したものであり、35mm白黒フィルムのみに写し込みをした。

また、遺構面ごとに基本的に縮尺100分の1の平板測量による遺構平面図を作成し、個別の遺構などについても、平面図・断面図等を適宜作成した。なお、1トレンチの最終遺構面については、レッカーバイによる空中写真測量で50分の1の平面図を作成した。

遺構番号の付与は、遺構の種類にかかわらず、調査順に1から連番で使用し、数字の後に遺構種類を明記している（例：2溝）。

各トレンチ調査では、適宜、大阪府教育委員会による立会を受けた。

遺構から検出した遺物は、遺構面・遺構ごとおよび包含層ごとに取り上げ、当センターの定めたマイラーベースの現場遺物取り上げ用ラベルを添付し、調査名・調査区名・地区名・層位／遺構面・遺構名・出土年月日・登録番号を記した。この際、付与した登録番号は、1から15までの出土順の通し番号で、トレンチを横断している。

遺物の台帳登録・洗浄・注記といった基礎的な整理作業は、現地における発掘調査の合間に随時実施した。

## 第2節 整理作業

遺構の整理は、断面図・平面図の整合性を確認し、遺物整理で得られた知見と照合し、再発掘をしていく作業である。

まず、当遺跡の堆積状況を把握するために、基本層序断面図を作成し、層序と遺構面の関係を把握した。

次に、各遺構の所属時期の検証を行い、主要遺構の平面・断面図を作成した。

現地調査で出土した遺物は、コンテナパッドに換算して1箱であり、それらを再整理し、重要と判断されるものについて、接合・実測・写真撮影を行った。

また、これらの作業に並行して、報告書の作成および刊行後の遺物管理を効率的に行うために、File Maker社のFileMakerpro 8.0 を用いて、マニュアルに則り遺物登録台帳を作成した上で、掲載遺物と未掲載遺物に区分し、所定のコンテナラベルを添付し収納を行った。

なお、本報告書掲載の挿図類は、遺構・遺物図の総てを Adobe社のWindows版PhotoshopCS2 を用いて図面の合成・調整を行い、さらに、IllustratorCS 2 を用いてトレース作業を行うという手順で作成した。

この他、1トレンチの全体図に関しては、現地調査の段階で作成した空中写真測量の成果であるデータ図面（DXF形式）を AutoDesk 社のAutoCad LT2007を用いて簡単な加工をした後、Illustrator上において加工・調整を施し、最終的な図面にしている。

写真図版に関しては、遺構は現地で撮影した35mmおよび6×7フィルムを、遺物は6×7フィルムで撮影したものを所定の大きさに紙焼きし、写真図版用の台紙に貼付し作成した。

なお、報告書の作成・編集は、Adobe 社のWindows版InDesignCS2 を用いて作業を行った。

# 第4章 調査の成果

## 第1節 基本層序

大和川今池遺跡の基本層序は、既往の調査から、概ね、現代耕作土層以下、近世・中世・古代の各作土層などが堆積しており、以下、中世・古代・古墳時代前期・弥生時代後期の各時期の遺構面が検出されている。

### 1. 基本層序

第0層 盛土層である。1トレンチでは、現況の高さでT.P. 14.0 mを測り、以下T.P.9.1mまでの 4.9 mが盛土であった。2トレンチでは、T.P. 13.0 mの現地表面から現代耕作土層上面のT.P.8.6~8.7mの間の 4.3~4.4 mを測る。3トレンチでは、現地表面のT.P. 10.0 mから現代耕作土層上面のT.P.8.9 mの 1.1 m間である。所謂、今池水みらいセンター建設に伴う造成盛土に相当する。

第1層 現代耕作土層で、約 0.2 mの厚みでほぼ水平に堆積していた。1トレンチではT.P.9.1 m、2トレンチではT.P.8.6~8.7mを測り、3トレンチではT.P.8.9 mと、南東方向から北西方向へ緩い傾斜を描いていることが判る。2トレンチの東側では、攪乱が第1層にまで及んでいたために、部分的に耕作土層の厚さを減じている。本来は、約 0.2 mで水平に堆積していたと思われる。また、同西側では、東端で畔状に盛り上がる。

なお、3トレンチでは、現代耕作土層上面のT.P.8.9 mが掘削限界であったため、以下は掘削していない。

第2層 中世から近世にかけての耕作土層である。1トレンチでは、暗オリーブ色の細礫が混じるシルトで、約 0.1~0.2 mの厚さであり、西端部で途切れる。須恵器・土師器の小片がわずかに出土している。他に、志野焼きの碗底部破片が1点出土することから、中世後期以降の作土層と考えられる。この下面で面的な精査を行い溝・土坑・ピットなどを検出している。

2トレンチでは、4層に細分される。灰色細砂が混じるシルト層や灰オリーブ色のシルト層で、0.3~0.4 mの厚みがあり、北にいくほど屢数・層厚を増している。第2層には、瓦器・土師器・須恵器などの小片をわずかに含むもので、中世以降の作土層である。

第3層 2トレンチのみで検出している。黒褐色の細砂を含むシルトで、厚さ 0.2~0.4 mを測る。下方に向かって漸移的に色調の濃度を増す。南壁断面では、2層に分離できた。遺物は、須恵器・土師器・黒色土器などの小片をわずかに検出し、古代に属す。

第3層下方は、地震変動により下層を巻き上げ、平面ではマーブル状になる。

遺物は、須恵器や土師器の小片をわずかに検出している。土師器の裏の口縁部破片や壺底部破片などから、古墳時代前期のものも含むが、概ね、古墳時代中期から古代にかけての時期である。

第4層 1トレンチでは、暗褐色のシルトが混じる細礫から粗礫が 0.3 m以上堆積しており、掘削限界により、下層は確認していない。遺物は出土していない。周辺の調査から、段丘礫層に相当すると考えられる。この上面で先述の遺構を確認している。

2トレンチでは、明黄褐色のシルト層で、T.P.約 8.0mの高さの上面で遺構面を検出した。

なお、2トレンチでは、中心部に径 0.9 mの下水管を埋設するための大規模な攪乱があり、さらに西

側にも、南北両端に構造物などの擾乱があったために、東端部と西端部の中央部のわずかな調査となつた。東端部側では擾乱が大きく、確認ができなかつたが、埋設管を埋めるために掘られた部分は、従来小河川が有つたようで、上層の第3層が肩部に落ち込むように検出された部分があつた。

## 第2節 遺構と遺物

面的な調査は、1・2トレンチ併に第2層上面と第4層上面で行つたが、第2層上面では遺構を検出しなかつた。

### 1. 1トレンチの成果

第4層上面の遺構面は、南南東から北北西に緩やかな傾斜を描き、トレンチの南東隅でT.P. 8.80 m、北西隅でT.P. 8.60 mを測り、比高差は0.2 mである。遺構は、第4層の地山層直上で検出され、溝・土坑・ピットなどを検出している。

溝は1条のみ検出している。

1溝 トレンチの中央部西寄りで検出された。東北東から西南西方向に延びるが、両端は削平されている。検出長3.2 m・幅0.45 m・深さ0.1 mを測る。埋土は1層で、暗灰黄色の中疊が混じるシルトである。遺物は出土していない。埋土から古代と思われる。

土坑は、数基が検出されているが、遺物が出土したものは1基のみであった。主に、埋土により、二分される。

その一は、5～7土坑のように、灰色の細砂から細疊が混じるシルトを埋土とするもので、従来の調査で中世以降とされる遺構埋土と同様のものである。遺物は出土していない。

その二は、古代の包含層である黒褐色のシルトが埋土として検出される2～4土坑である。1トレンチでは、後世の削平を受け、この層は存在していなかった。3土坑からは、土師器破片が1点のみ出土している。

ピットは、土坑と同様に埋土が二種あり、8ピットのみが黒褐色のシルトで、それ以外は、灰色の細砂であった。遺物は出土していない。

第3層からは、土師器・須恵器などがわずかに出土しているが、図化できたものは、第9図-34の志野焼き碗の底部破片が1点のみである。

### 2. 2トレンチの成果

面的な調査は、第3層上面および下面の2面の調査を実施した。第3層上面では、明確な遺構は検出していない。第3層下面では、東西で1条ずつ溝を検出している。

1溝 東側の南東端から北西方向に延びる溝で、検出長約8m・幅1.4 m・深さ0.35 mを測る。北東端部がわずかに開く。埋土は1層で、黒褐色のシルトである。

この溝は、地震変動を受けていないことから、本来は7層上面から切り込まれていたと考えられる。

遺物は、土師器・須恵器の小片がわずかに出土している（第9図1～7）。1は、須恵器杯身の口縁部破片で、口縁部端部は内傾する面をもつ。2の須恵器高杯は、長脚2段透かしの脚柱部を残す。3は土師器甕の口縁部破片で、頸部外面に粘土紐の繩目を残す。形状から古墳時代のものと思われる。4は土師器高杯の杯底部破片で、中央部に径3 mmの孔を穿つ。5は図上復元で、直口の小型鉢である。底

部が平底であることから、弥生時代後期末～古墳時代前期初頭に属すと思われる。6・7は土師器裏の口縁部および頸部破片で、いずれも頸部の屈曲は明確な稜線をもつ。7は体部外面にハケメ、内面にヘラケズリ状ナデを施す。弥生時代後期末～古墳時代前期初頭に属すと考えられる。

以上の遺物は、弥生時代後期末から古墳時代後期であることから、この溝は古墳時代後期に属すと考えられる。

2溝 西側の中央部で検出された東西方向の溝で、検出長約5m・幅1.5m・深さ0.15mを測る。埋土は、灰黄褐色の細砂が混じるシルトが1層である。遺物は出土していない。

1溝と同様な埋土であることから、同一溝とも考えられたが、方向に差異があることと、どちらの溝も小河川に向けて流れ込むことから、別の遺構としたが同時期のものと思われる。

第3層出土遺物 2トレンチの第3層から出土した遺物には、土師器・須恵器および製塙土器などがある（第9図-8～25）。8～10・13は土師器で、8は蓋の口縁部破片である。口縁部端部が内傾する段をもつ。9は皿の口縁部破片で、口縁部端部がわずかに外方へ肥厚する。10は杯の口縁部破片で、口縁部端部内面に沈線を1条廻らせている。13は羽釜の鉢部分を残す破片で、角閃石を含む生駒西麓産のものである。16～25は須恵器で、16は杯Hの蓋、17は古墳時代中期の杯蓋である。18・19は杯身で、古墳時代後期のものである。20～22は甕の口縁部破片で古代に属すと考えられる。24は甕の体部破片で外面に大振りの斜格子タタキ目を施している。23は器台の脚部破片で、櫛描き波状紋および凹線紋を施している。25は高杯の脚台破片である。11・12は製塙土器の口縁部破片で、口径12cm前後の手づくねのものである。前者は二次焼成を受けている。14・15は甕の口縁部破片と壺ないしは鉢の底部破片で、弥生時代後期～古墳時代前期初頭に属すと考えられる。

第2層出土遺物 2トレンチの第2層から出土した遺物には、土師器皿(26)・須恵器鉢(27)・瓦器椀(33)・瓦質土器羽釜(32)、平瓦(28)などがあり、他に、古代の須恵器鉢(29)・黒色土器椀(30・31)などがある。

### 第3節 まとめ

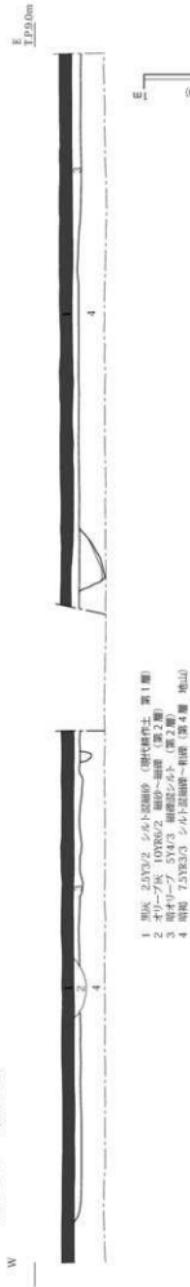
今回の調査は、今池水みらいセンター内の3箇所の調査を行い、そのうちの2箇所で遺構を検出することができた。いずれのトレンチも、数mにおよぶ盛土を除去しての調査で、現代耕作土層以下、古墳時代後期からの連綿と続く良好な地層を確認し、1・2トレンチでは2面の調査を行うことができた。いずれも、中世の作土層下面では、遺構を検出することはできなかったが、この地が中世から現代において耕作地であったことが確認できた。

また、1トレンチでは、古代から中世にかけての溝・土坑・ピットなどを検出し、遺構の扯がりを確認することができた。2トレンチにおいても、古墳時代後期の溝を2条検出しており、2006年～2008年に実施した大和川今池遺跡の15トレンチより東側でも、この時期の遺構が扯がりをみせることができた。

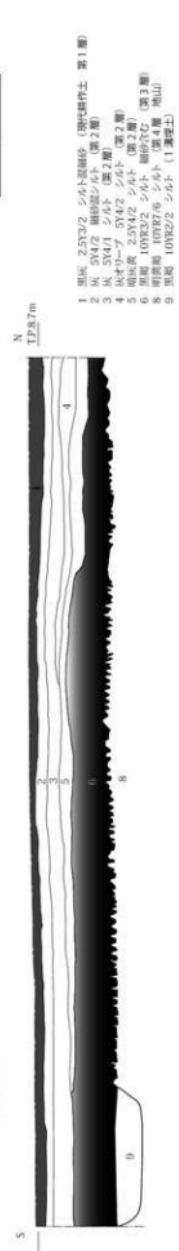
なお、第3層から弥生時代後期末から古墳時代前期初頭の上器が出土していることから、近辺にこれらの時期の遺構の扯がりがある可能性を指摘できる。

いずれにしても、小地域の調査ではあったが、今池遺跡を知る上でわずかながらの知見を得ることができた。

1トレンチ 南側断面



2トレンチ 東側 南壁断面

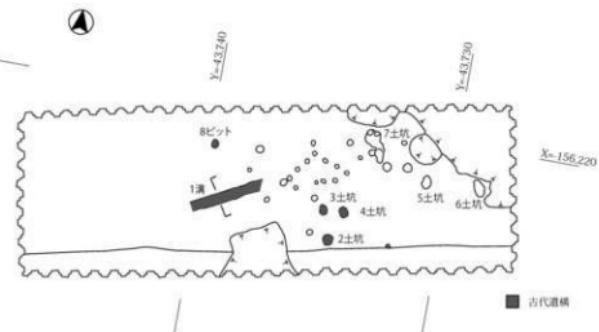


2トレンチ 西側 南壁断面

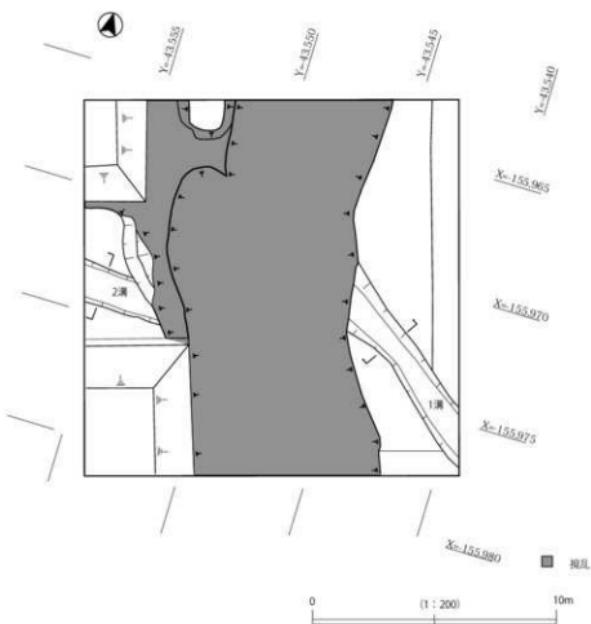


第6図 基本層序図

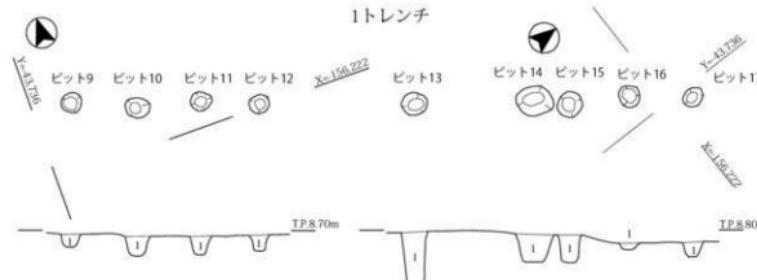
1 トレンチ



2 トレンチ



第7図 1・2トレンチ平面図



1 灰 5Y4/1 細砂混シルト



1 暗鏡 2.5Y4/2 中硬度シルト



X-1562



8-156,220

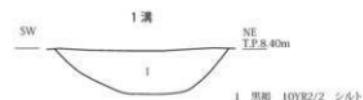


1

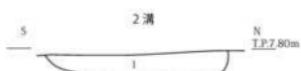


1 所 25Y4/1 腹臥型シル

## 2トレンチ

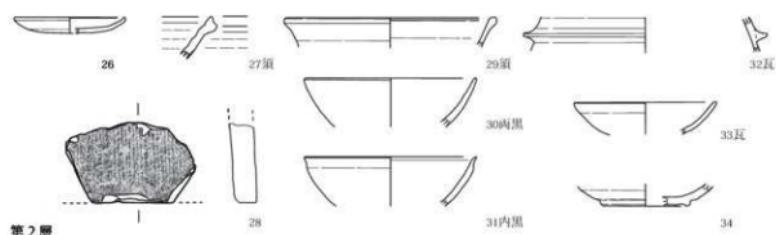
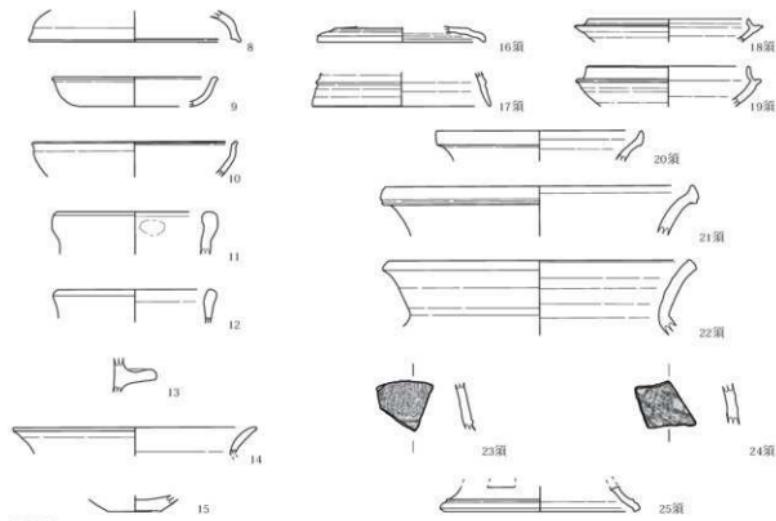
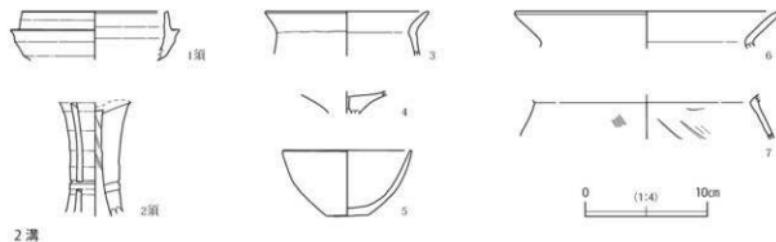


#### 1. 题型 10YB2/2 之八)



#### 1. 施設別 10YRA/2 破砂崩シルト

### 第8図 各遺構 平・断面図

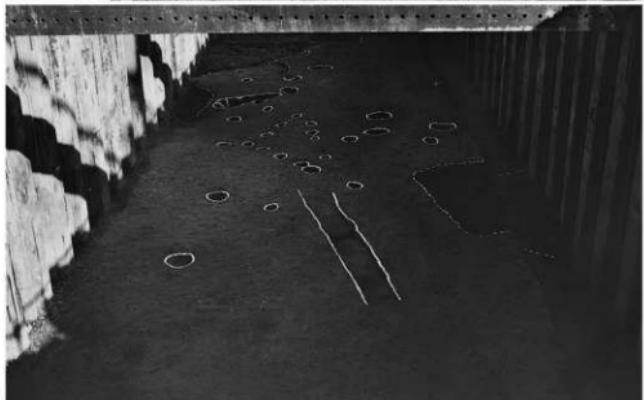


第9図 出土遺物実測図

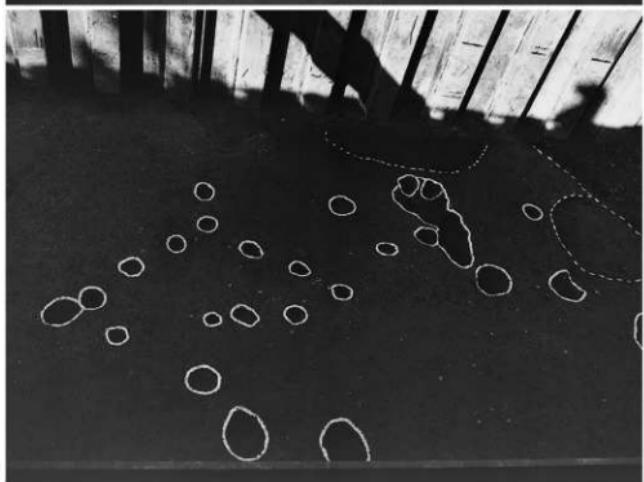
図版1 遺構 1トレンチ



1. 第1面 全景（東から）



2. 第2面 全景  
(西から)



3. 第2面 西半部  
(南から)

図版2 遺構 2トレンチ



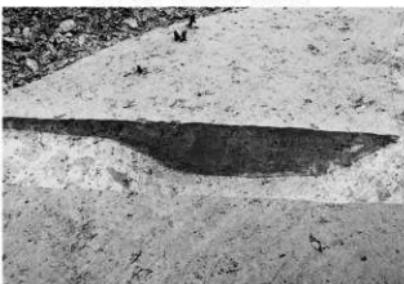
1. 東側 南端断面（南東から）



2. 西側 南端断面（北から）



3. 第2面 西側全景（南から）

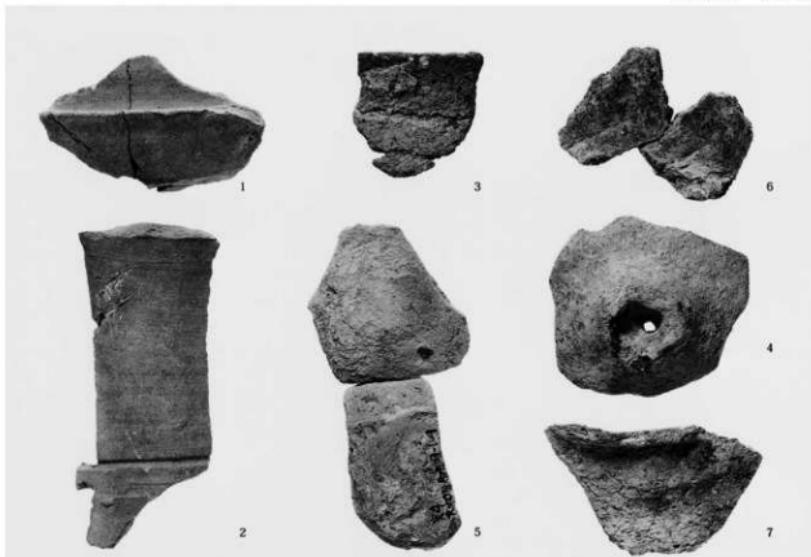


4. 第2面 1溝断面（南東から）

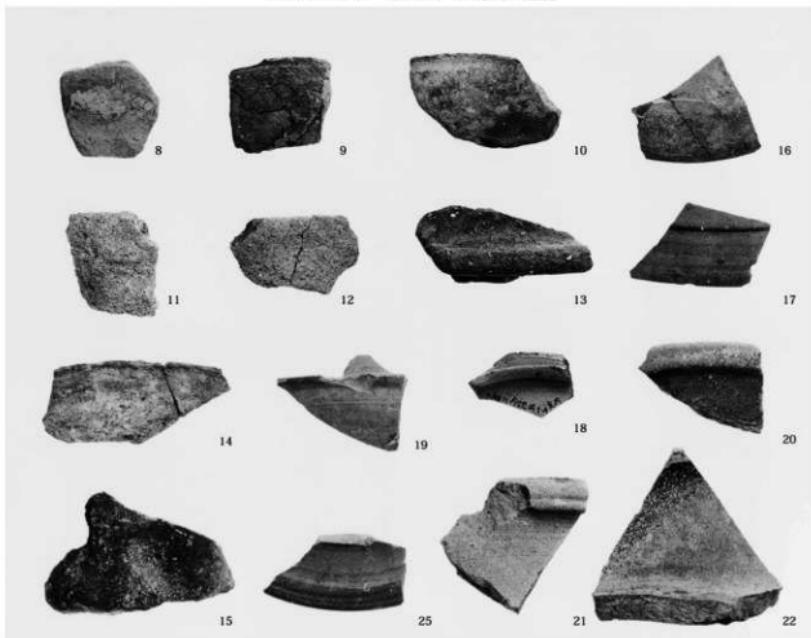


5. 第2面 東側全景（南西から）

図版3 遺物

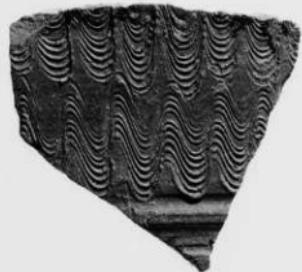


1. 2トレンチ 第2面 1溝出土遺物



2. 第3層出土遺物

図版4 遺物



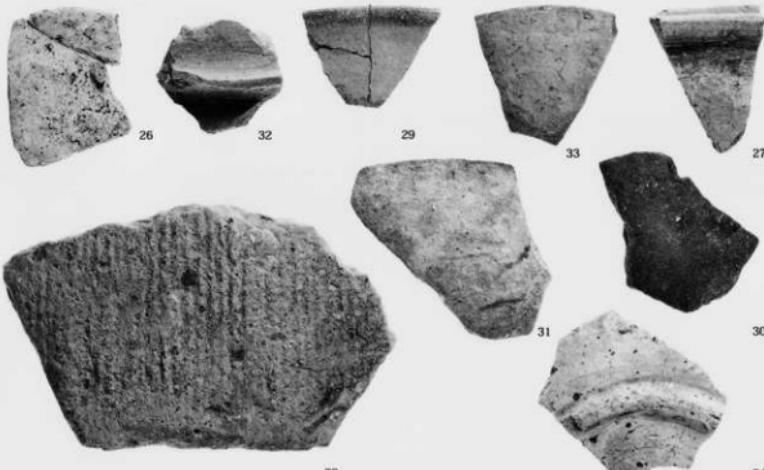
23

1. 第3層出土遺物



24

2. 第3層出土遺物



3. 第2層出土遺物

## 報告書抄録

(財)大阪府文化財センター発掘調査報告書 第202集

## 大和川今池遺跡Ⅲ

—都市計画道路大和川線に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行年月日／2010年5月31日発行

編集・発行／財團法人 大阪府文化財センター

大阪府堺市南区竹城台3丁21番4号

印刷・製本／株式会社 中島弘文堂印刷所

大阪市東成区深江南2丁目6番8号